仁方歴史散策地図

1 八岩華神社

1908（明治41）年、この地域にもともと鎮座していた八幡神社・岩倉神社・下華田神社が合祠され、一つの神社になった際、それぞれの社名一字をとって命名された、ユニークな名前を持つ神社です。

その拝殿は、市内の神社建物のなかでは、最も大きい部類（了間4間）にあたります。

●八幡神社…大分県の宇佐八幡宮を勧請したもので、古老の話によると、1556（弘治2）年、豊田郡虎海城主・浦兵部宗勝が再建したということです。合祠されるまでは、仁方村の鎮氏神でした。

●岩倉神社…1532（天文元）年、磐座大明神と号し海の神様として祭られていました。1562（永禄5）年9月17日、八幡宮の室可・花田兵部宏次が川尻の地から西町の西砂（現八岩華神社の地）に遷座しました。

1847（弘化4）年の祭礼に事納相撲を開催しました。

●下華田神社…和歌山県の熊野本宮から勧請したもので原（現中筋町の児童公園）に祭られていました。

2 正法寺

明治初期に創建された正法寺は、1903（明治36）年7月の大洪水で寺院が全て流出しました。その際、本尊の木像阿弥陀如来は難を免れ、1973（昭和48）年8月現在地に本堂が再建されました。

3 地蔵堂

正面台座に「相原寺地蔵菩薩」「宝暦12年午夫」「弗阿宗運法子」「俗名相原市五郎」と刻まれています。

1762（宝暦12）年11月、同郷の白市村出身である仁方塩田の大原屋本原保満が台座を奉進し、生前とても信心の厚い人柄だった相原市五郎の子孫・蔭屋啓次が邸内に菩薩を安置しました。

この土地は、相原本家の屋敷跡で、白市村から仁方村へ移った当時の旧宅のあった場所です。

4 実相院（清水寺）

1882（明治15）年4月18日、川尻村の棟正信という人が祖行4間、桁行5間の寺を建立し、明治21年9月12日、愛媛県越智郡弁治宮屋町の住職吉水聖信師を迎え、浄土宗総本山知恩院直轄の說教所詰としたことから始まり、その後、内陣・庫裡を増築し、本堂を改僧し今日に至っています。本尊は御丈三尺の阿彌陀如来坐像です。また、院内には寛文年間（1661年～1673年）建立の立石山清水寺（本尊は木造一尺二寸の観世音菩薩）が1983（昭和58）年2月実相院境内に移転改築されています。

5 亀石

その形が亀の背中に似ていることから、亀石といわれています。

この石は、中筋の美師堂傍にありましたが、水害により美師堂が神町に移されるとともに同境内に移されました。

その後、美師堂は虚空蔵堂内へ再建されましたが、亀石はそのまま現在地で替むしています。

隣の石柱には、「背についた苔もいく世ぞ石の亀」と刻まれています。

6 虚空蔵菩薩（薬師寺）

創建は不明。字白日（現在の西神町）に虚空蔵菩薩を安置し、虚空蔵堂と称しました。

1717（享保2）年正月に虚空蔵堂が再建され、1981（昭和56）年に改築されています。

美師寺は美師如来を本尊とし、当初中筋の美師橋のたもとにありましたが、1903（明治36）年の大水害の時に流失しました。その後、神町に再建され、更に平成7年12月14日に現在の虚空蔵堂内に移設されました。

7 殿さん墓

「脇田主殿正　白日探去建之」と刻まれている墓石を地元の人は「どのさん墓」といいます。

伝えるところによると昔、石州津和野城主・脇田主殿正という者が本村に来て一城を築き（古地城）、久しく古地城を守っていましたが、敵の攻撃により城が陥落した際、今の墳墓付近にて、割腹し果てたといわれています。この主殿正は毛利氏の血族であるのが、家紋に「一文字三星」が刻まれています。

8 仁方町中央標柱

仁方町の中心に位置する標柱は郵便局前の昭和橋そばに建てられています。

正面は「仁方町中央　御大典記念　昭和3年11月　仁方青年団」

右面は「西方　広村四軒　呉駅十三軒　東方　川尻町古軒　内海町十四軒」

左面は「黠濤石を登ッ」とそれぞれ刻まれています。

9 相原環翁頌徳碑

1928（昭和3）年町長に就任以来、役場庁舎の新築、小学校の新築増築、道路の新設・拡張、三県線の開通等、仁方町の政治経済文化の発展に尽くされました。

仁方町は波の功績を敬慕し、昭和33年9月に碑を建立しました。

10 「原子雲の下で」発刊記念碑

被爆40周年を迎え、原爆被爆体験の記録本「原子雲の下で」が1985（昭和60）年4月1日に発刊されました。

これを記念して呉原爆被爆者友の会仁方支部が、記念樹を植え石碑を建立しました。

11 定魂碑

1894（明治27）年から1950（昭和25）年までに戦死された仁方町出身の方々331名の御魂が奉られている鬼魂碑は、昭和17年に建立されました。

遺族会・女性会・老人会等、地元の方々により清掃・献花され、亡くなられた方々のご冥福と慰惜な戦争を繰り返さない誓いを立てています。

毎年8月15日には仁方遺族会主催の戦没者追悼慰霊式が執り行われています。

12 松井先生頌徳碑と記念碑

松井善一氏は、1903（明治36）年から26年間仁方小学校校長として尽くされ、明治44年2月に文部大臣賞を受けられました。碑は1936（昭和11）年に同窓生、町の有志者により建立されました。

隣接には、明治31年に建立された「仁方村立有志者建碑」、仁方町教育のために寄附された「教育事業寄付者柱碑」があります。

13 東泉寺臥亀句碑

今は廃寺になっている東泉寺美師堂9世の住職：寺本臥亀（俳名）が、1862（文久2）年の夏に仁方・川尻境に句碑を建立しました。

人の高さ位の自然石に

春日如衣　石たたむ松の横や風がおる

松陰麓人

と刻んだ碑は、「日を春れば炎の如く、松陰は人をよみがえらす」ということで、昔から見人の旅人が汗をぬぐって休憩しながらこれを読んで慰められたといわれています。

この碑は、1974（昭和49）年12月現在地に移設されました。

14 相原正敏翁頌徳碑

1954（昭和29）年から昭和48年まで仁方地区自治会連合会長として、町の発展振興に生涯を捧げてこられました。

氏の人格識見と多額の資財を投じて仁方地区及び呉市の教育、福祉、経済、産業に尽くされた功績は誠に顕著であり、氏を偲び昭和49年12月に碑が建てられました。

15 相原巌翁頌徳碑

1885（明治18）年6月、仁方戸長に選ばれ、その後初代村長・町長として1928（昭和3）年12月までの間、町制の刷新、教育の進展、産業の興隆、道路改修、その他風紀改善等、仁方町民の福祉のため尽力されました。その功績を讃えて昭和10年6月に碑が建てられました。

16 醤油醸造場の煙突と川がんぎ

亀甲マツ醤油醸造場の丸いレンガの煙突は、1927（昭和2）年頃再築されました。

この煙突の顔ともいえる最上部の飾り（王冠部）には、竜匠が凝らされており、レンガの持つ表現の多様性を感じさせます。

市内に数多くあったレンガ煙突も今では少なくなり貴重なものとなっています。

川がんぎは、岸壁と違って潮の水面に係わらず、荷役ができます。錦川に面して明治初期に造られた川がんぎは、自動車の発達していない時代に川船用として使われていました。

17 錦町の地蔵堂

3体の地蔵さまが祀られています。安置年代は不明です。

「歯の痛む人この地蔵尊を至誠心にて頼めば、痛み止む由にて祈願する人あり、近年広島の人、或は大阪の人聞き伝え、遥拝祈願堂験あり可機縁をそなえし由、米銭をそなやゆれば、大上の清兵衛と雷へ、

百姓世話話して、慢頭弗飯をそなえ申し候」と国郡志御用書上帖に記載されています。

18 白岳観音堂

62段の石の階段を登ると町内を見渡せる景観のよい高台に観音堂があります。

正武名称を白岳山阿耨菩薩円正観世音といい、正徳年間（1711年～1716年）に建立され、堂内には、銅像1寸8分の観世音菩薩が安置されています。

1807（文化4）年12月に再建され、平成11年5月に4回目の修復が行われています。

19 常夜燈

江戸時代、常夜燈の灯りを頼りに錦川へ船が出入りしていました。また、夜間の渚灯としても使われていました。

この常夜燈には「金比羅大権現　文政八乙酉年4月　石工当村畑　久八」と刻まれています。

町内では、他に新宮神社に当時浜庄屋であった大原屋順三郎が献灯したものも見られます。

20 大師堂

弘法大師を本尊とする大師堂は、明治の初め頃、お遍路さんがお宿に泊んで世話をしていました。建立された年月日は不明ですが、1982（昭和57）年多数の方の寄付金により改築しました。

26 白井縫殿介の墓地

戸田北部の島の中に白井縫殿介の墓といわれる五輪の塔があります。

縫殿介は戦国時代の本願の将で、戸田を領し、石山本願寺の戦いで戦死したといわれています。

五輪の塔は、上から空輪・風輪・火輪・水輪・地輪の石で、平安時代後期から現れたもので、供養塔・舎利塔として用いられていました。

したがって、鎌倉時代前期には既に墓標として用いられました。

古くからの墓地に見受けられる五輪の塔は、面積の狭い仁方地区での分布密度が高いといわれています。

27 仁堀航路の記念碑

江戸時代から仁方の交通で重要な位置を占めていたのは海上交通でした。

太平洋戦争中、軍の要望から本土側は仁方港に四国側は堀江港にルートが決まり、1946（昭和21）年5月1日、鉄道連絡船として仁堀航路の運行が開始されました。

折から資料・物資不足の時代であり、四国から物資が運ばれたり、戦後開放された逸製客なども、船舶は連日満杯の活況を呈しましたが、その後、次第に利用が減り、昭和57年6月30日を以て遂に仁堀航路36年の歴史を閉じました。

この歴史を偲び、昭和58年3月国鉄により仁堀航路跡の記念碑が建てられました。

28 塩田の由来碑（中学校）

港橋架設工事の際、塩田の名残の井戸石柱が出たので、それを記念として碑が建立されました。

29 湊七郎理立記念碑

湊七郎は、仁方町の地形から、本町発展のために、海の玄関を建設整備することを確信し、私財投資で海面埋立・整備を1898（明治31）年に起工、5年後に竣工させました。

氏の功を偲び明治45年に町有志が記念碑を建立しました。

30 雁木

雁木は、船着き場における階段状の構造物。岸壁と違って、潮の満ち干や河川の流量変化による水面の上下に係わらず岸降や荷役ができるため、仁方湾内の船着場などで多く見られます。

31 恵比須神社

地元では、「胡ーさん」と親しまれ、1949（昭和24）年に世話人が再建しました。

祭神は事代主命（ことしろぬしのみこと）で、商売の神様として祭祀されています。

平成22年改築され、胡子神社を恵比須神社と改称しました。

33 大歳神社

1479（文明11）年熊野新宮を勧請して創建したと言い伝えられています。

神社の春祭当日には、米麹で作った甘酒を神酒として供えることとなっています。

祭礼には「大歳神楽」として奉納され、現在も伝承されています。

34 大師堂（弘法堂）

小高い丘の上にある大師堂は、1900（明治33）年地元の人により建立されました。本尊は弘法大師で、地蔵菩薩も安置されています。

35 新宮神社

紀伊国熊野新宮を勧請したものといわれ、祭神は天照大神、他三尊が祀られています。

当社棟札によると、1550（天文19）年土居刑部が創建したものて、その後1720（享保5）年に再建したものと記載されています。その後いたみがひどく平成19年に改修されました。

36 浄徳寺

1553（天文22）年、僧顔成が本町塔の後に一宇の禅寺を創設しましたが、五世浄空の時に真宗に改宗して西本願寺派に属するようになりました。

1761（宝暦11）年3月に現在の地に移築されました。

1947（昭和22）年2月10日に本堂は全焼しましたが、信仰厚き町民の熱意によって翌年には再建され、平成17年に本堂の阿鑑整備が行われました。

本尊は木像の阿弥陀佛立像です。

37 芭蕉塚

「ひからびて　押し分け見たる　柳かな」

この句碑は、松尾芭蕉を慕う仁方の俳人達が、1822（文政5）年芭蕉の生誕200年を記念して、翁の句を京都の俳人桜井梅室に書かせ、それを石に刻んで句碑にしたものといわれています。

碑は当初西町の松宮邸にありましたが、昭和40年頃中筋の中洲宅の庭に移し、保存されています。

38 堀観音

はじめは「古地城」の守り本尊として、持経観音菩薩が宗派寺に安置されていましたが、戦乱で城が滅んだ後、寺も滅び観音像も盗難にあいました。手島宏右衛門は伜度は盗まれないように堀城の二の丸跡に祀り城主の霊を弔うとともに観音様を盗人から守ってもらうようにご観音堂を作りました。1842（天保13）年5月10日のことです。

その後、長年の風雨で荒廃したため、平成8年千歳山宗源寺堀観音堂が現在地に再建されました。

観音堂には観音像とともに僧形の木像一体と位牌が安置されています。

39 宗源寺多宝塔

平成10年、当地と縁のあった浦宗隣の菩提所並びに堀家、手島家の菩提所として、三宝山薬願寺住職・寺下公興僧正、堀家の子孫及び有志により創建されました。

本尊は奄神観音菩薩です。